



| | | |
|-----|---|---------------------------------|
| 9日 | 火 | 冬休み後全校朝会 集団登校開始※15日まで |
| 12日 | 金 | みなかぜ塾(6年生) |
| 15日 | 月 | イングリッシュ・ウィーク エルフの会読み聞かせ(5年生) |
| 16日 | 火 | 自主登校開始 |
| 17日 | 水 | ピンクシャツ・デイ |
| 19日 | 金 | 委員会活動 南風カフェ(3年生) |
| 25日 | 木 | 新1年生入学説明会 |
| 26日 | 金 | みなかぜ塾(4年生) |
| 29日 | 月 | エルフの会読み聞かせ(6年生) |
| 31日 | 水 | 感謝の会(1年生) |

お母さんからの請求書

- 空模様が心配です。
明日の対応はメールでお知らせしたとおり。
休校と判断した場合に備え、今日「南風No.10」を配付しています。
- 明日予定していた「冬休み前全校朝会」で子どもたちにこんな話をしようと考えていました。

ある日曜日の朝のことです。
いちろうが二階からおりてきて朝ごはんのテーブルにつきました。ポケットから一枚の紙を出しました。
そしてお母さんのお皿の横におきました。
お母さんはその紙をひらいてみてみました。
そこにはこんなことが書かれていました。



| お母さんへの請求書 | |
|-----------------|--------|
| お使いで買い物に行った代 | 500円 |
| お風呂掃除をしてやった代 | 300円 |
| ねこにご飯と水をあげてやった代 | 200円 |
| 合計 | 1,000円 |

お母さんは…にっこりして何も言いませんでした。
お昼ご飯の時間になりました。
いちろうのお皿の横には1000円が置かれていました。
いちろうは大喜び。作戦が成功したぞ。
と、お金の横に1枚の紙が置いてあるのに気が付きました。
開いてみると、それはお母さんからの請求書でした。
そこにはこんなことが書かれていました。

| | | |
|---------------|----------------------|---|
| ご飯をつくってあげた代 | <input type="text"/> | 円 |
| 洋服やくつを買ってあげた代 | <input type="text"/> | 円 |
| 部屋代 | <input type="text"/> | 円 |
| 病気のときの看病代 | <input type="text"/> | 円 |
| 習い事への送り迎え代 | <input type="text"/> | 円 |
| 優しい言葉をかけてあげた代 | <input type="text"/> | 円 |
| 合計 | <input type="text"/> | 円 |

- ここで子どもたちに金額を予想させてみたいのです。
そのあと、このお母さんが書いていた金額を伝えようと
考えていました。
そして感じたこと、考えたことを友達や家族に
話してみましよう、と投げかけるつもりでした。

▼この話、道徳の教科書に載っているものを
私が少し言葉や数字を変えたり加えたりした
ものです。
ずいぶん昔、3年生を担任をしていたとき。
この話をつかって授業をしました。
「いちろうは甘いね。ぼくなら
お風呂掃除代だけで1000円やね」
「お使い代はもっと高くもいいよ」
「肩たたき代もあるよ」…
いちろうの請求書を見て
子どもたちは次々にお母さんへの
請求を増やしていきます。



▼「でもこのお母さん優しいよね。怒らんで
にっこりして何も言わなかったもの」
「いや、逆にそれが怖いやろう…」
そんなことをつぶやく子どもたちに、
「お母さんはいくら請求したでしょうね」
と聞かけると、多くの子どもがとても
高い金額を予想しました。

▼実はお母さんは…と、
お母さんの請求書に示されていた
金額を伝えました。
書かれていた金額は全て「0円」
です。「なんで!?!」「うそやん」
という子もいました。
でも多くの子は、だまって何かを考え
始めているようでした。



▼明後日から子どもたちは冬休み。
ふだんの休日以上に家族とかかわる時間も
密度も長く濃くなるのでは、と思います。
その中で、子どもたちがふだんは何も感じ
ない、気にすることのない、当たり前と
感じていることを「有難いこと」だと
気づき感じてもらえることを願っています。

▼保護者、地域の皆様。
改めてこれまで子どもたち、
私たちを温かく力強く支えて
いただき本当に有難うございます。
皆様よいお年をお迎えください。



●12月29日金曜日から1月3日水曜日までの6日間は
学校閉庁日です。
この期間に緊急の連絡がある場合は、
糸島市役所【092-323-1111】へ連絡ください。

◆心を傷つける方向に働く書き言葉◆

ちょうど1年前の通信に書いたことです。
SNS、メールやラインなど。
これらは大人の目が届きにくいところで広がり、
子どもたちを傷つけていくことがあります。
他の学校では、自分たちで「ライングループ」を
つくってやりとりしている子どもたちもいる、と聞いて
います。そしてそこでの書き込みが原因で心に
深くダメージを受ける子が出ています。
そうならぬよう、私たち大人がしっかり目と心を配り、
子どもに働きかける必要があります。
今回も、お子様に配付している「冬休みの生活」に
「保護者の皆様へ」と題して
具体的な働きかけのなかみを
示しています。
確認いただき、お子様へ
お声かけと見届けを
お願いします。

